

松本障害保健福祉圏域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

部会・プロジェクト名 地域移行部会	開催日：令和3年7月15日（木） 時間：13:30 ～ 15:00 場所：松本市梓川公民館
参加者構成機関名：松本市障害福祉課、塩尻市福祉課、安曇野市福祉課、麻績村住民課、朝日村住民福祉課、松本保健福祉事務所福祉課、松本保健福祉事務所健康づくり支援課、松本市保健所保健予防課、基幹相談支援センター、総合相談支援センターWish、アルプス学園、あいさぽーと、ハートラインまつもと、村井病院	
次第：自己紹介、1 リーフレット案の検討、2 意見交換会についての協議、3 部会員からの地域移行に関する情報交換等、4 県自立支援協議会「精神障がい者地域移行支援部会」報告、5 その他	

## 会議内容

### 自己紹介

#### 1 リーフレット案の検討

##### <改定趣旨>

平成26年に作成した地域移行リーフレットをリニューアルして活用する。今回はいわゆる『地域移行支援のパンフレット』ではなく、入院患者が退院したいと思ったときや退院できると言われているとき、病院スタッフから見て退院できると思うときに具体的にどう動けばいいかを分かりやすく説明するものとした。

##### <リーフレットの内容>

##### ○全体構成

- ・A4版 三つ折り
- ・三つ折りにした状態の裏面に当事者のメッセージ、開くと支援の流れがわかるように掲載。  
医療機関、家族へのメッセージを入れる。

##### ○内容

##### ・表紙

表題は『街で暮らそう』+α

退院という言葉に敏感に反応し不安になる方がいるため、『退院』を表紙から省いた。

部会名の後に『(地域で暮らす) お手伝いをします』等のメッセージを入れる。

##### ・連絡先

電話番号は基幹相談支援センターのみ掲載(FAXは不要)。様々な連絡先があると、どこへ連絡すればよいか迷うため、窓口を一本にする。

地域へ戻るにあたって福祉サービスが入る場合、長期入院患者が退院する場合等は必ず市村へ連絡が入る。連携はとれているので連絡先が基幹相談支援センターのみでも支障はない。

本人から相談が入った場合には、市村へ連絡することについて了承を得るようにする。

#### ・支援の流れ

右側：『地域で生活するためにお手伝いをします』として、地域へ出た後にサービスへつながるイメージを持てるように記載できるとよい。

#### <今後の流れ>

- ・事務局から部会員へリーフレットのデータを送る。部会員は意見や変更点がわかるように入力し、8月16日までに基幹相談支援センターへ送付。
- ・意見を集約しリーフレット会で検討。
- ・9月15日第3回部会で再度内容を検討。
- ・来年2月の幹事会に実施要領とともにリーフレットを提出する。

#### 2 意見交換会について

- ・コロナ禍であり、医療機関や施設職員が集まるのは危険。そのため意見交換会は中止とする。
- ・9月の部会を拡大部会として実施し、事例検討を行う。提出事例によって参集範囲を決定する。  
事例提出候補：キノネアク、あいさぽーと
- ・グループワークはやらずに教室形式にするなど、実施方法を検討する。

※令和4年2月の精神障がい者地域生活支援研修会の講師に関して希望があれば、9月の部会で意見をいただきたい。

#### 3 部会員からの地域移行に関する情報提供等

- ・松本市保健所の説明（組織、業務内容等）
- ・長期入院している方の退院に向けて支援している。退院ではなく地域で暮らし続けることにゴールを設定し、より先の生活をイメージして具体的にアセスメントしないといけないと感じた。
- ・精神科医療機関からグループホームへ入所した方の場合、支援者が『グループホームへ入所したら終わり』という感じになってしまうことがある。支援者との関わりが切れてしまうと、施設側も不安になってしまう。日常的に丁寧に支援することで利用者も施設も安心できる。
- ・ケースをきちんと把握してからサービスを入れないとうまくいかないと感じた。
- ・若い障がい者は介護保険が使えず、障がいだけでは行き先が見つからないケースが多い。制度のはざまに落ちてしまう。
- ・医療機関の枠のある生活の中では過ごせるが、地域に出て枠が外れた途端に問題行動を起こしてしまう。枠がない地域では守るべきところを本人にわかってもらえず支援が難しい。
- ・入院中にグループホームの体験はしているが、住む場所だけでなく日中の生活の体験（日中活動）をしてから退院することが望ましい。
- ・医療監察法や措置入院のケースの地域移行後の受け皿がないため、困難ケースとなってしまうことがある。
- ・支援者が「グループホームで暮らせない人がひとり暮らしは無理でしょう」という評価をしていた、グループホームでの共同生活が苦手な発達障害の方に対して、ひとり暮らしへの支援を行った。本人の事を知る事が大事であると改めて学んだ。

・この間の退院支援に関わる中で受ける感触として、「グループホームはしっかりとした枠組みがあり安心できる支援の場」という理解が医療関係者の中に多くあるが、実はグループホームの集団生活への苦手さががトラブルの原因になっている場合もあり、万能ではないという理解が必要と感じた。

#### 4 県自立支援協議会「精神障がい者地域移行支援部会」報告

次回 開催日時：令和3年9月15日（水）

内容 ① 地域移行の事例報告・事例検討（拡大部会）

② 「リーフレット」について

③ その他